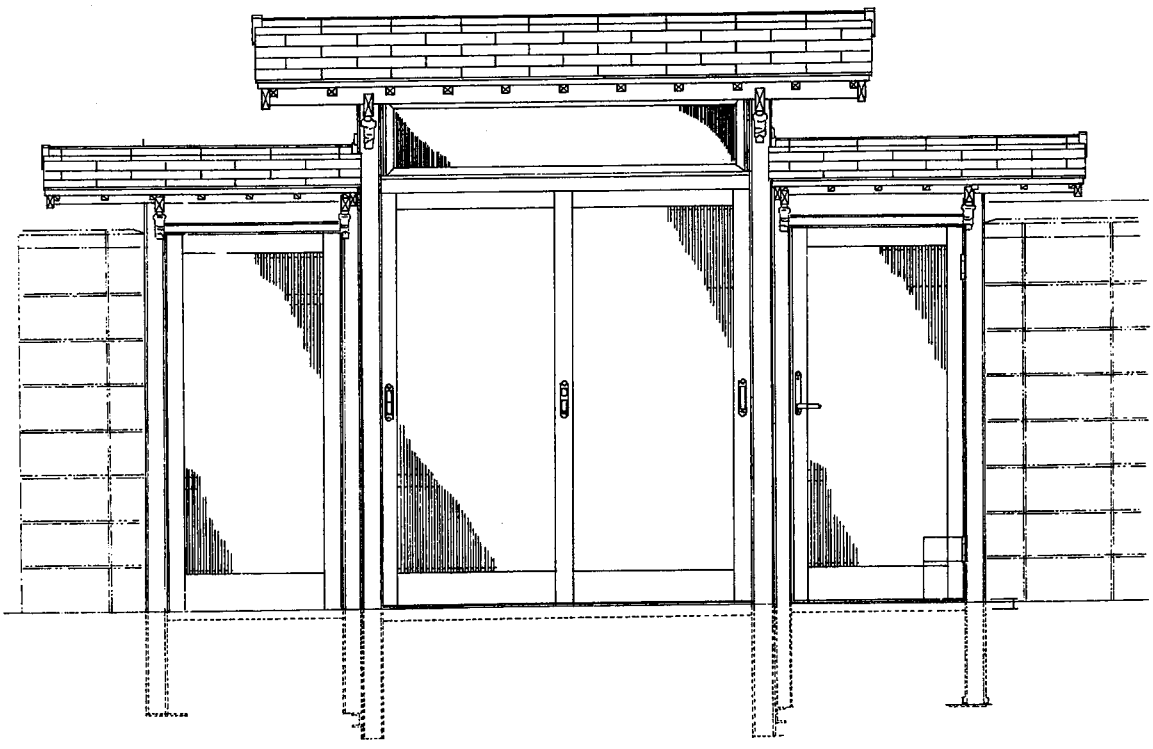
新日軽㈱アルミ門戸

マニュアル番号 NM-711 改-3

新日軽アルミ門戸〈ほうじゅもん〉

宝樹門

施工マニュアル



㈱ 新日軽株式会社

■アルミ製品の施工上の注意事項

新日軽の製品をお買上げいただき誠にありがとうございます。
正しい施工をしていただくため当マニュアルをお読みください。
施工完了後は、当マニュアルをお施主様にお渡しください。

注意事項

施工にあたっては次の点を注意してください。

1. モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
2. モルタルやコンクリートの抽出液が工事中にアルミ製品の表面を流れないように注意してください。
抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になります。
3. モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
4. 施工時にアルミ製品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
5. アルミ製品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
6. 腐食の恐れのある接着剤や科学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。

- みだりに改造等の仕様変更は避けてください。
- 施工終了後、マニュアルは施主様へお渡しください。

■ 安全にお使いいただくために必ずお守り下さい。

このマニュアルに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味
⚠注意	この表示を無視して、取り扱いを誤ると使用者が損害を負う危険や物的損害の発生が予想されることを表します。

ご使用上・施工上の注意

⚠注意

- 施工完了後は障子又は扉の開閉チェックを行い、不具合がないか確認して下さい。
- 開閉時には手足・衣服等を挟まないようご注意下さい。
- 屋根の上に乗ったり、重量物を乗せたりしないで下さい。又、本体をゆすったりしないで下さい。
製品の破損や落下などによる人身事故発生の恐れがあります。
- 製品に貼り付けられている注意・警告等のラベルをはがさないで下さい。
- 下枠レール（床面走行）の上にゴミ・土砂（雨水）がたまらないよう定期的に清掃を行って下さい。
- 中間アンカーは必ず壁（躯体）に固定して下さい。

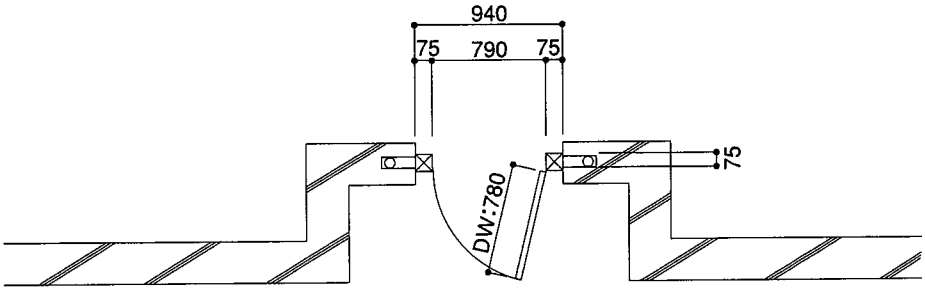
基礎工事の際には下記の点に注意して下さい。

- 地盤が軟弱な場合は柱の埋込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。
- 柱基礎には必ず割りぐり石を敷き十分つきかためてください。
- 地下埋設物に注意してください。
- 寒冷地に御使用の場合は、その地域にあった凍結保土を行ってください。

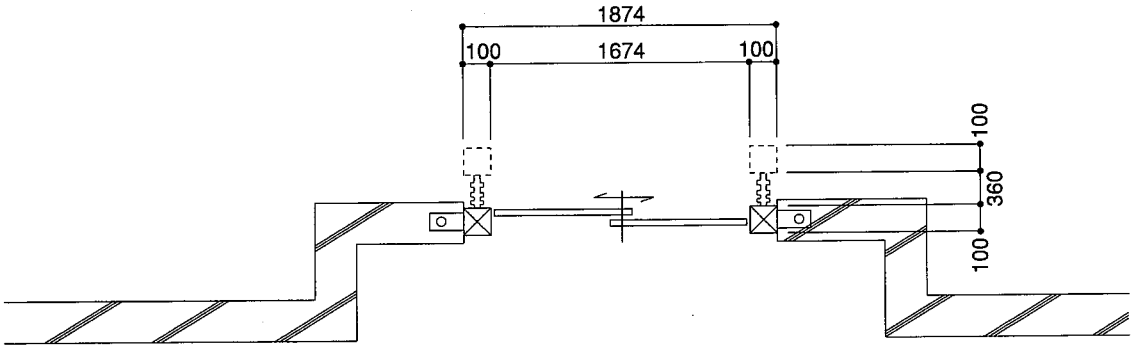
■施工寸法図　（参考寸法図）

●下記施工寸法は現場に合う納まりの参考寸法になっております。
●仕様によって下記寸法を施工時の参考にしてください。
●屋根付タイプの場合には、屋根の大きさを考慮して施工してください。屋根の大きさはP4～5を参照ください。

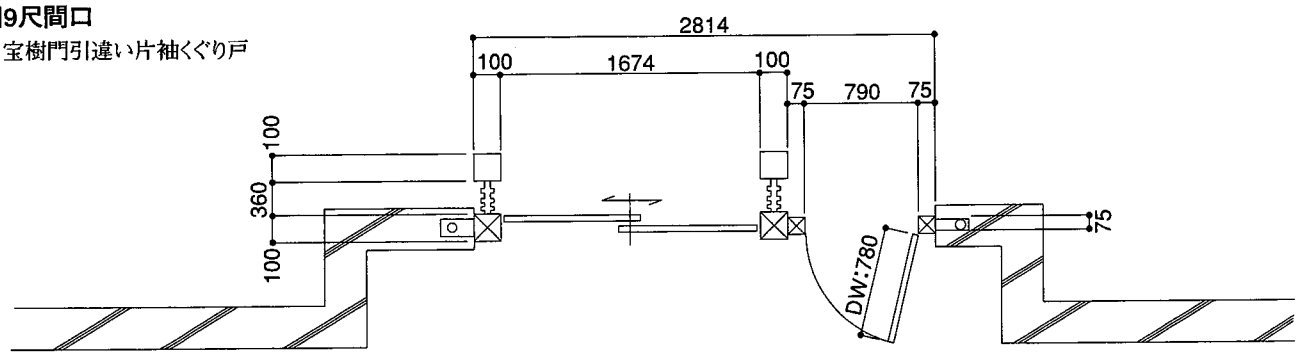
■3尺間口
片開きくぐり戸



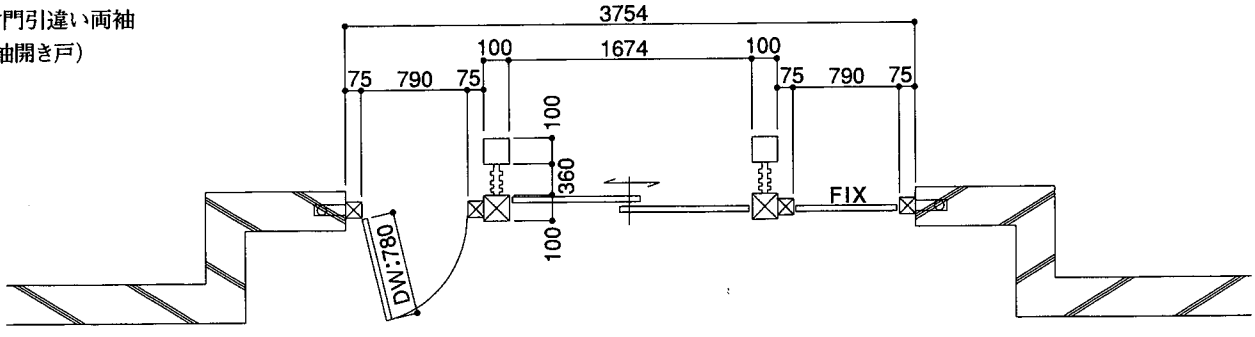
■6尺間口
宝樹門引違い



■9尺間口
宝樹門引違い片袖くぐり戸

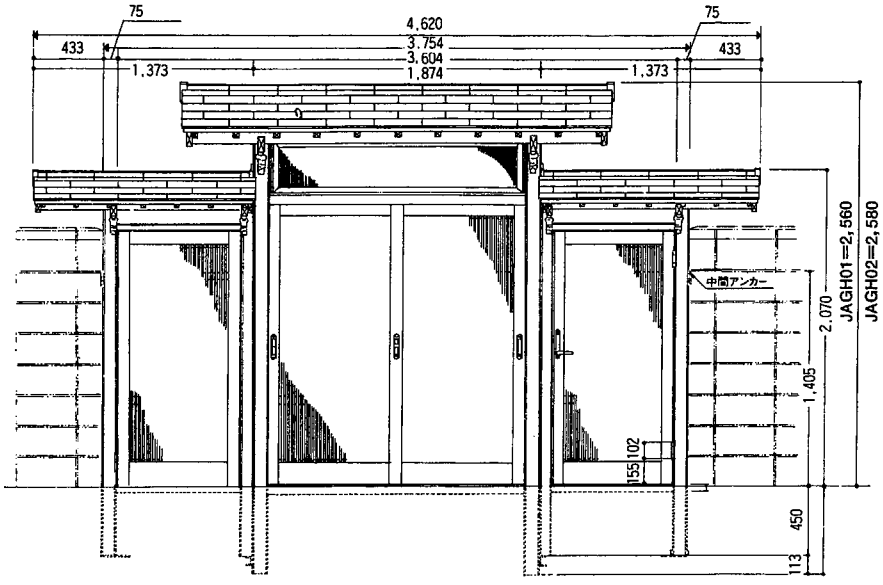


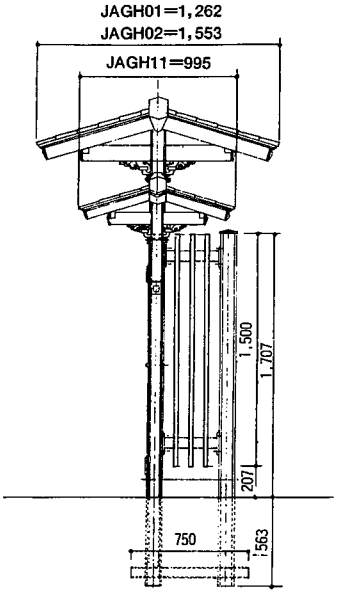
■12尺間口
宝樹門引違い両袖
（片袖開き戸）



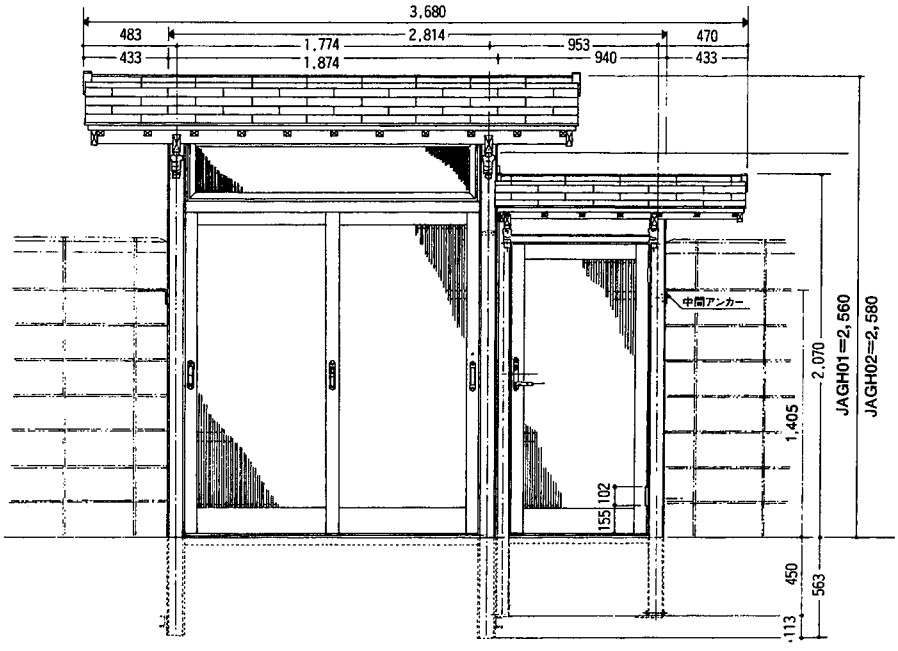
■基本寸法図

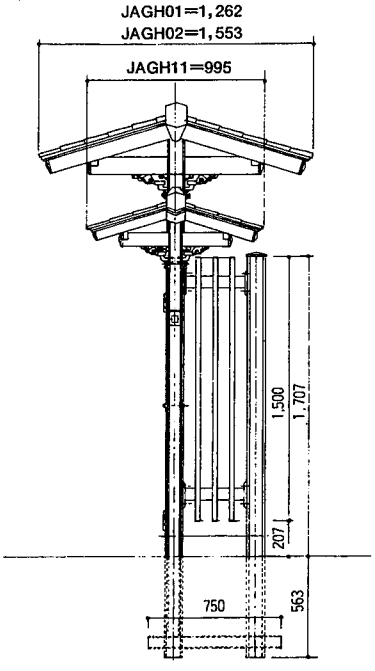
1 屋根付両袖門納まり（12尺間口）





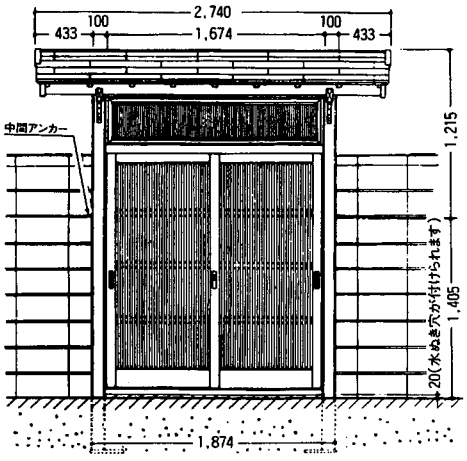
2 屋根付片袖くぐり戸納まり（9尺間口）



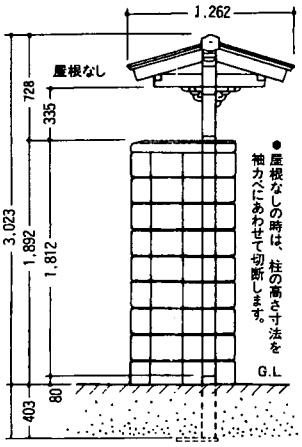


■基本寸法図

3 屋根付納まり図（6尺間口）

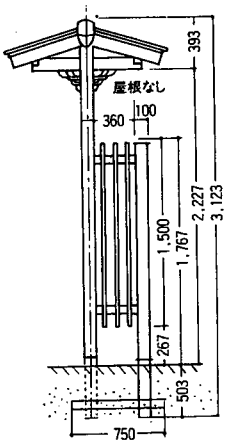


下レールを埋めこむ時(　)内は自立タイプ柱の時



外側⇦⇨内側

自立タイプ柱利用の場合



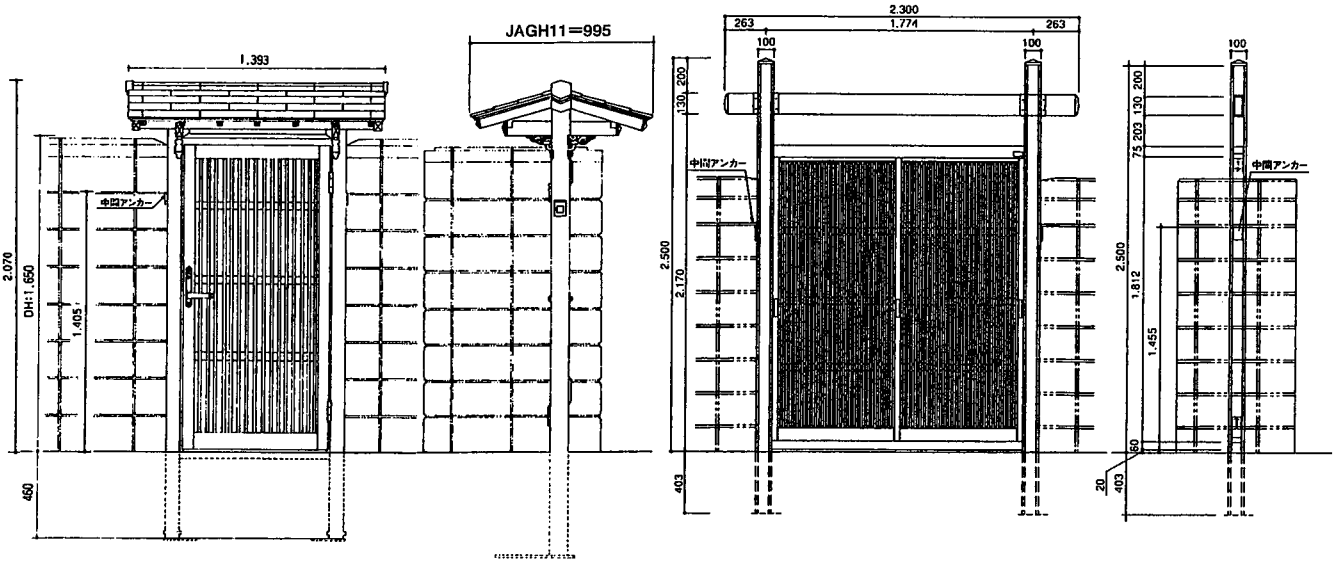
外側⇦⇨内側

4 屋根付納まり図（3尺間口）

標準タイプくぐり戸

◦外開きが標準になっています。内開き納まりにする場合は、別図説明をお読み下さい。

5 鳥居タイプ納まり図（6尺間口）

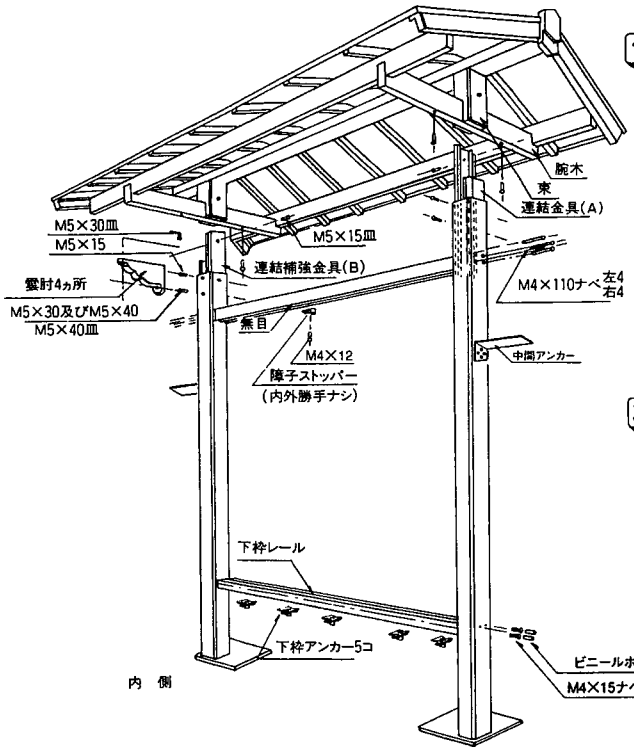


★本図は外開きタイプの図になっています。

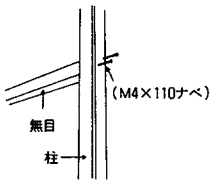
本製品を現場組立てする時に必要な工具――――① ⊕ドライバー　② スパナ
③ 電気ドリル（φ3.6キリ）
④ φ6コンクリートドリル

■屋根付タイプ(6尺間口)

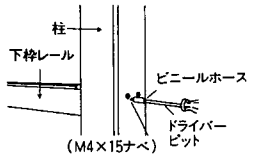
取付手順



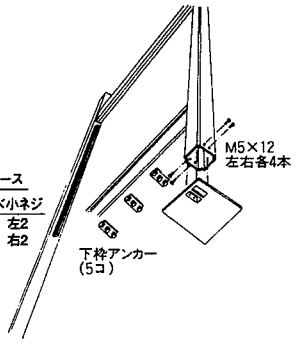
1 無目に左右柱を取り付ける。



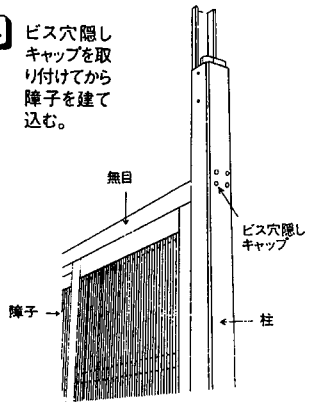
2 左右柱に下枠レールを取り付ける。(ドライバーのビットにビスセットの中に同梱されているビニールホースを差し込みビスが落ちないように保持して下さい。)



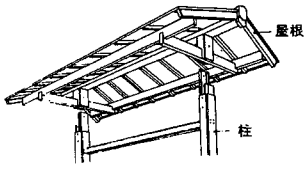
3 下枠アンカー及びアンカープレートを下枠、柱に付ける。



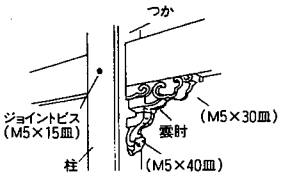
4 ビス穴隠しキャップを取り付けてから障子を建て込む。



5 屋根を柱上端に差し込む。

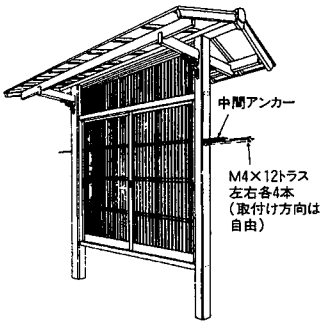


6 ジョイントビスを締め雲肘を取り付ける。



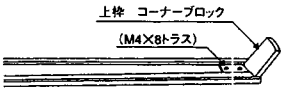
7 柱の中間部に中間アンカーを納まりに合わせて取り付ける。木に取り付ける時は木ビス・既説のブロックに取り付ける時はφ6下穴を明けてフィッシャープラグで取り付けて下さい。

8 据付ける。

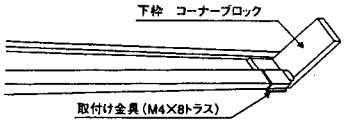


門戸用ランマ取り付け説明書

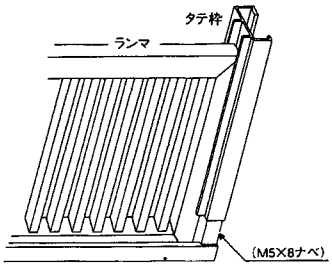
1 上枠両端にブロックを取り付ける。



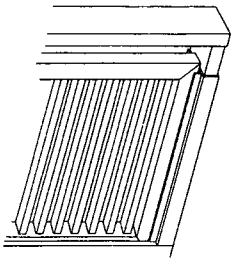
2 下枠にブロックと取り付け金具を取り付ける。



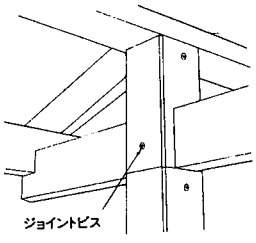
3 下枠にランマを差し込み、コーナーブロックにタテ枠を差し込む。



4 タテ枠に上枠を取り付ける。

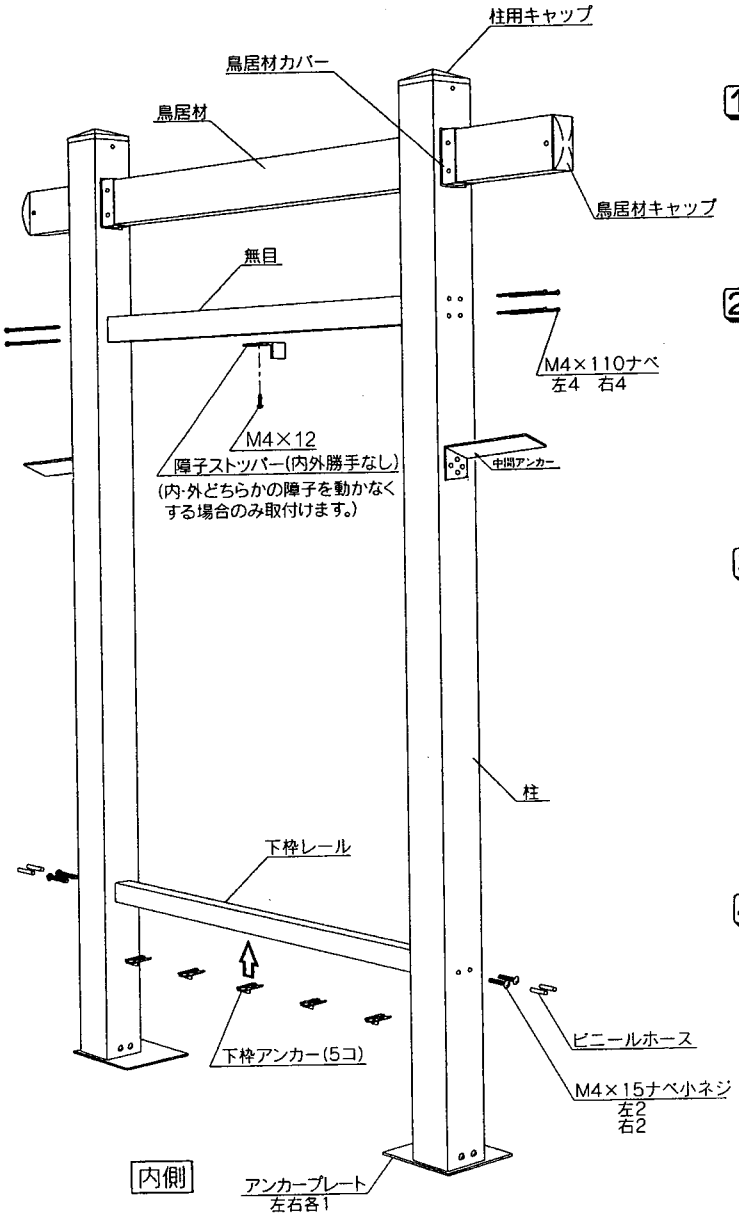


5 柱のジョイントビスをはずす。



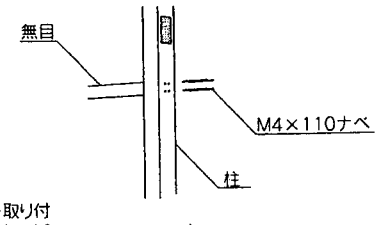
6 無目の溝に取り付け金具を嵌め込みタテ枠上部穴と柱のジョイントビス穴を合わせ、ランマ取り付けビスを締める。

■鳥居タイプ(6尺間口)

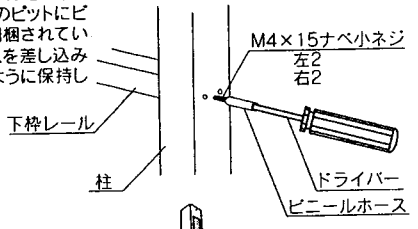


取付手順

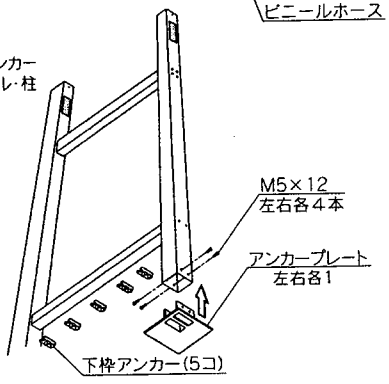
1 無目に左右柱を取り付ける。



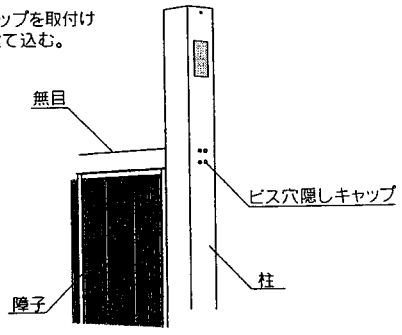
2 左右柱に下枠レールを取り付ける。(ドライバーのビットにビスセットの中に同梱されているビニールホースを差し込みビスが落ちないように保持してください。)



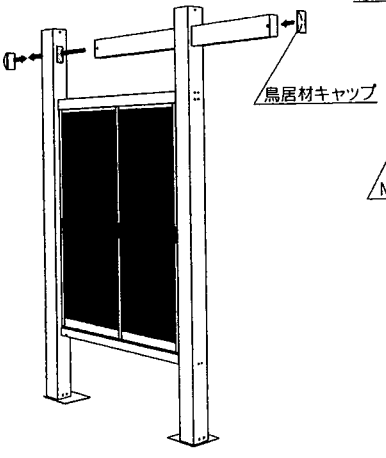
3 下枠アンカー及びアンカープレートを下枠レール・柱に付ける。



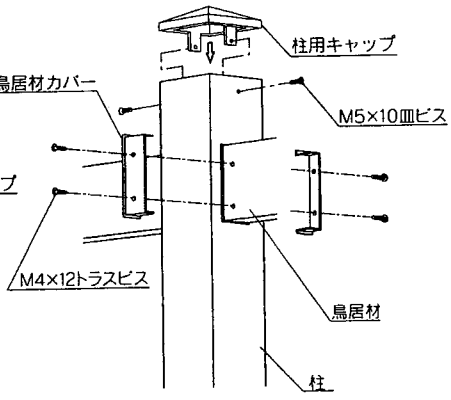
4 ビス穴隠しキャップを取付けてから障子を建て込む。



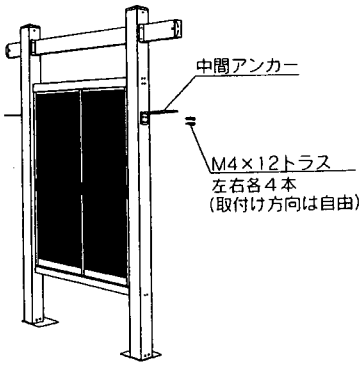
5 鳥居材を柱の切欠き部分に挿入します。鳥居材両端部に鳥居材キャップを取付けてください。
注)鳥居材を挿入する際には、鳥居材表面に傷がつかないようご注意下さい。



6 鳥居材カバー、柱用キャップを取り付ける。

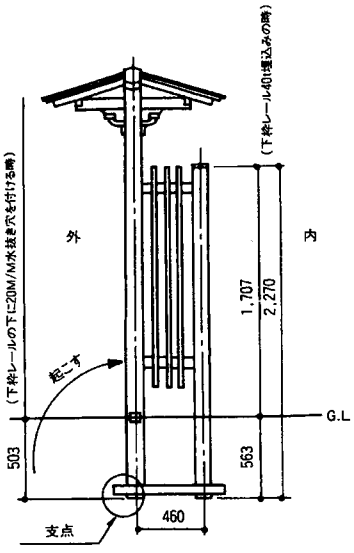


7 柱の中間部に中間アンカーを納まりに合わせて取り付ける。木に取り付ける時は木ビス・既設のブロックに取り付ける時はφ6下穴を明けてフィッシャープラグで取り付けてください。



7 据付ける。

■門戸自立タイプ柱(6尺間口)　(控柱内付タイプ)

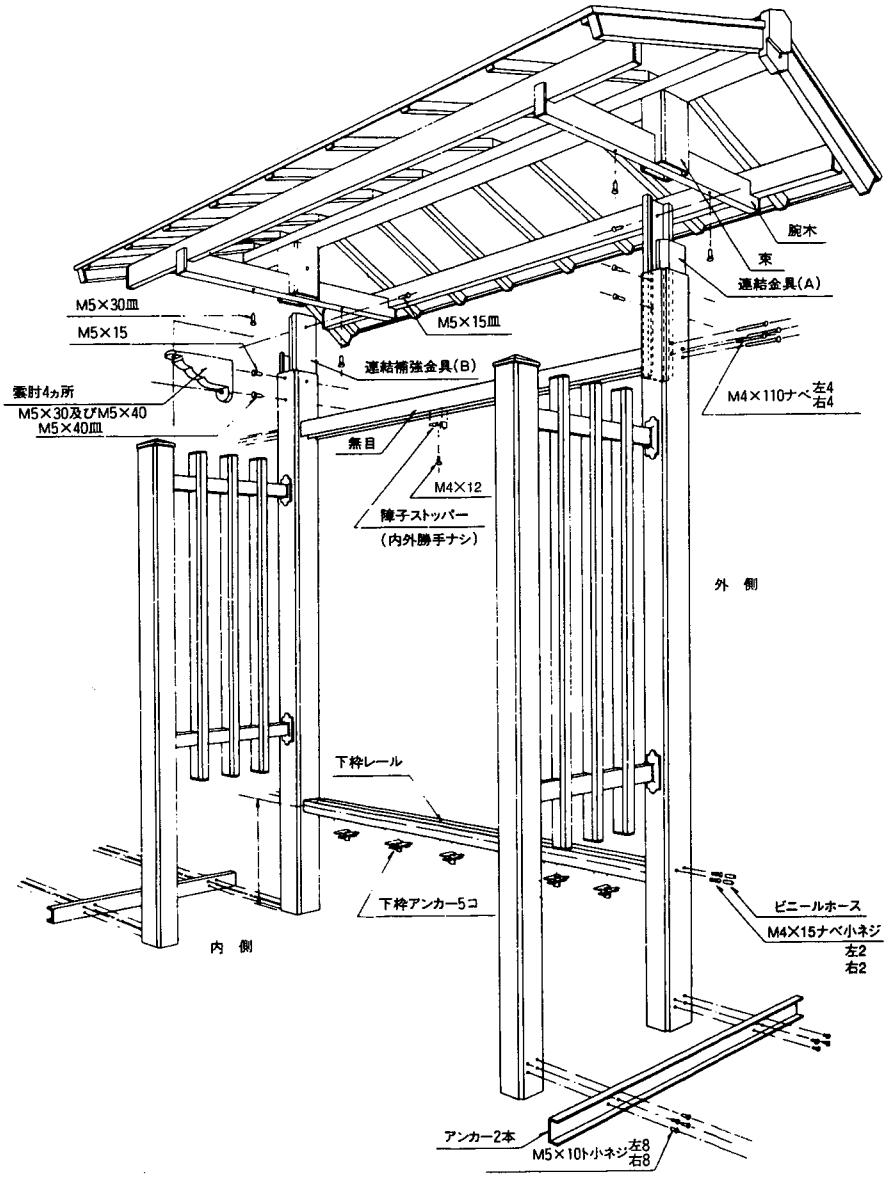


○屋根付の場合で地上組立て後柱を建てる時は障子側の主柱を支点として起こす様にして下さい。

○この製品の組立てビス類は夫々の取付部品別に分けてポリ袋に入れ夫々の取付位にテープ止めしてあります。確認して下さい。

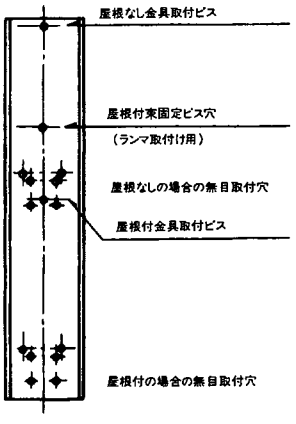
取付手順

1. アンカーを夫々の柱の外側に取り付けて下さい。(M5×10ト小ネジ各8本)
2. 無目を取り付けます。(M4×110ナベ各4本)(屋根付の場合と屋根なしの場合の連結補強金具の取り付けを注意して下さい。)
3. 下枠レールにアンカーを5ヵ所均等に振り分けて付けて下さい。
4. 左右柱に下枠を取り付けます。(M4×15各2本)(ドライバーのビットにビスセットの中に同梱されているビニールホースを差し込みビスが落ちないように保持して下さい。
5. 無目・下枠レールにビス穴隠しキャップを嵌込みます。(無目各4本・下枠各2本)
6. (屋根付きの場合)屋根を連結補強金具に刺し込みビス(M5×15皿)でしっかり取り付けて下さい。
7. 雲肘を左右腕木に各2コ取り付けて下さい。(M5×30皿 4本　M5×40皿 4本)
8. 門戸を建てて埋込み深さの確認をして下さい。(レールを埋込む場合は563㎜レール下に水抜き穴を付ける場合503㎜水抜き穴は中央と左右各1ヵ所位いで残りの隙間は必らずコンクリートをつめて下さい。下枠アンカーの位置に注意)
9. 障子を建て込んで下さい。(障子の建て込み調整はタテ框の下端の穴からドライバーで戸車調整して下さい。)
10. 障子ストッパーを無目レールの中に取り付けます。(内・外障子を動かなくする場合のみ)



連結補強金具について　(屋根の連結方法)

連結金具(B)は屋根付の場合、無目取付穴の下の屋根なしの場合は上の方を夫々使って下さい。
連結金具(A)は屋根なしの場合は100㎜下げて取り付けて下さい。

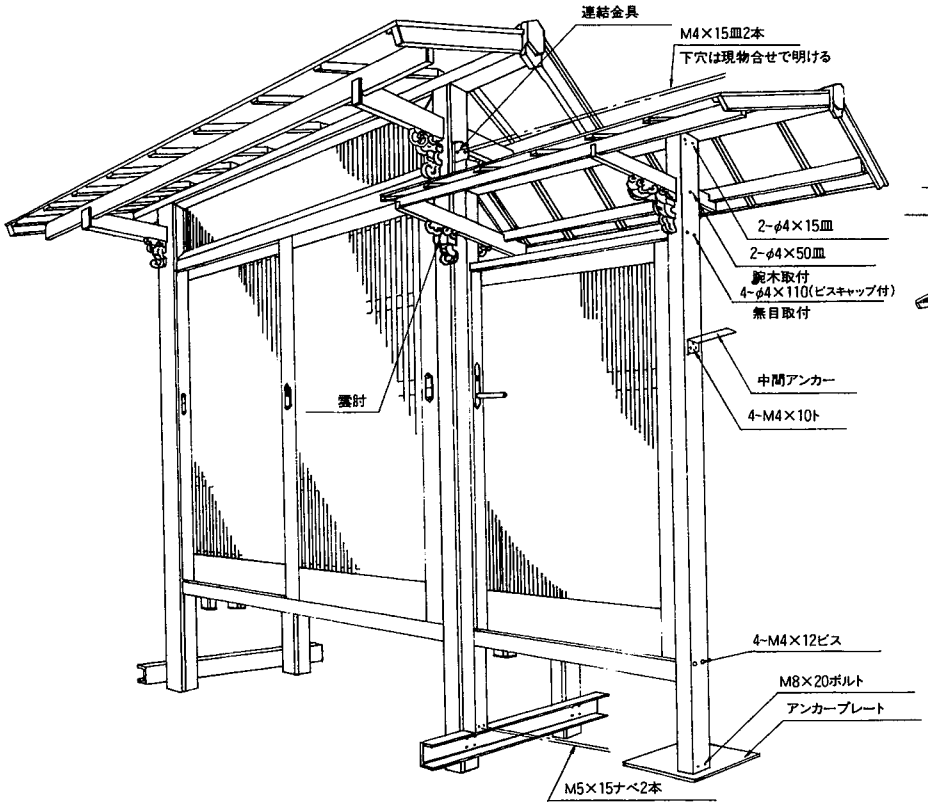


連結補強金具(B)

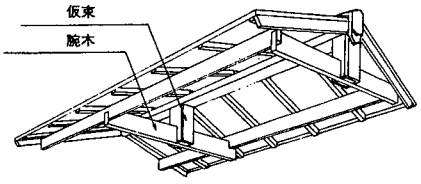
(連結金具は屋根付仕様になっております)

■屋根付片袖くぐり戸（9尺間口）　開き戸

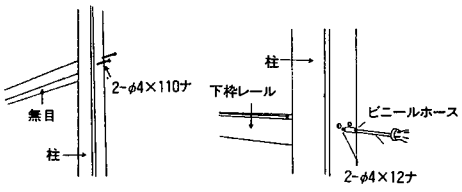
宝樹門引戸の組立は５頁を参照



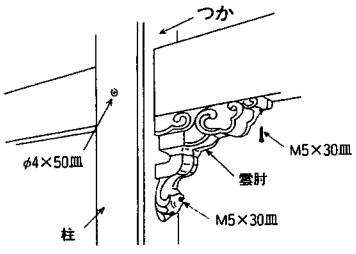
1 仮束を外して連結鬼瓦を取り付けて下さい。



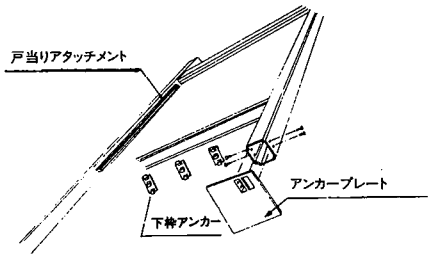
2 左右の柱を屋根に付ける。棟木の連結・腕木の連結・無目・下枠レールと夫々連結してください。
下枠レールのビスを付ける時は、ドライバーのビット部にビニールホースを付けてビスを止める。



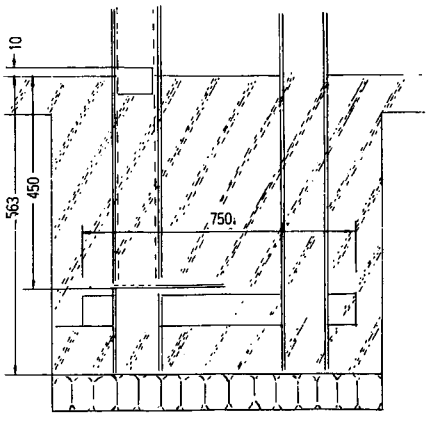
3 雲肘を取付ける。



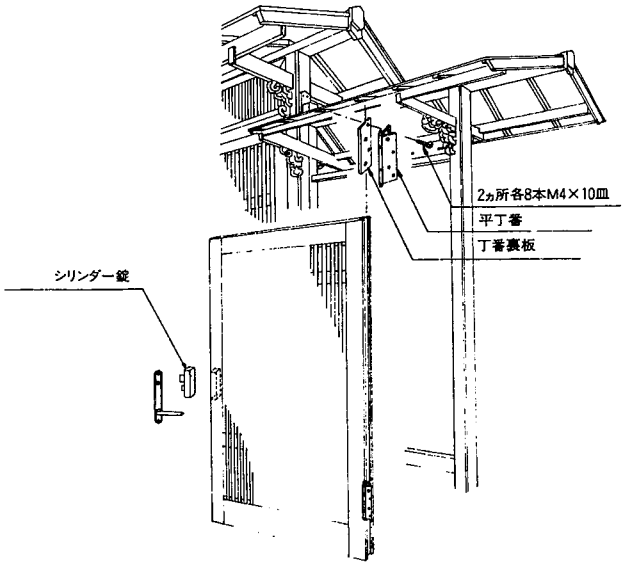
4 アンカープレートを取付ける。
（外側柱のみ）



5 宝樹門本体を据付け転倒しないよう仮固定してくぐり門を据付ける。下部、宝樹門連結アンカー部にM5×15のビスで宝樹門と連結する。（柱の通りに注意）。上部連結鬼瓦の上部の穴に現物合せで宝樹門柱にφ3.6の孔を明け、φ4×15㎜ビス2本で固定する。くぐり戸吊元柱側の中間アンカーを付けて土間・ブロックの本施工をして下さい。



6 開き戸を吊込みます。扉は外開き納まりになります。扉と下枠のチリは10㎜にして下さい。

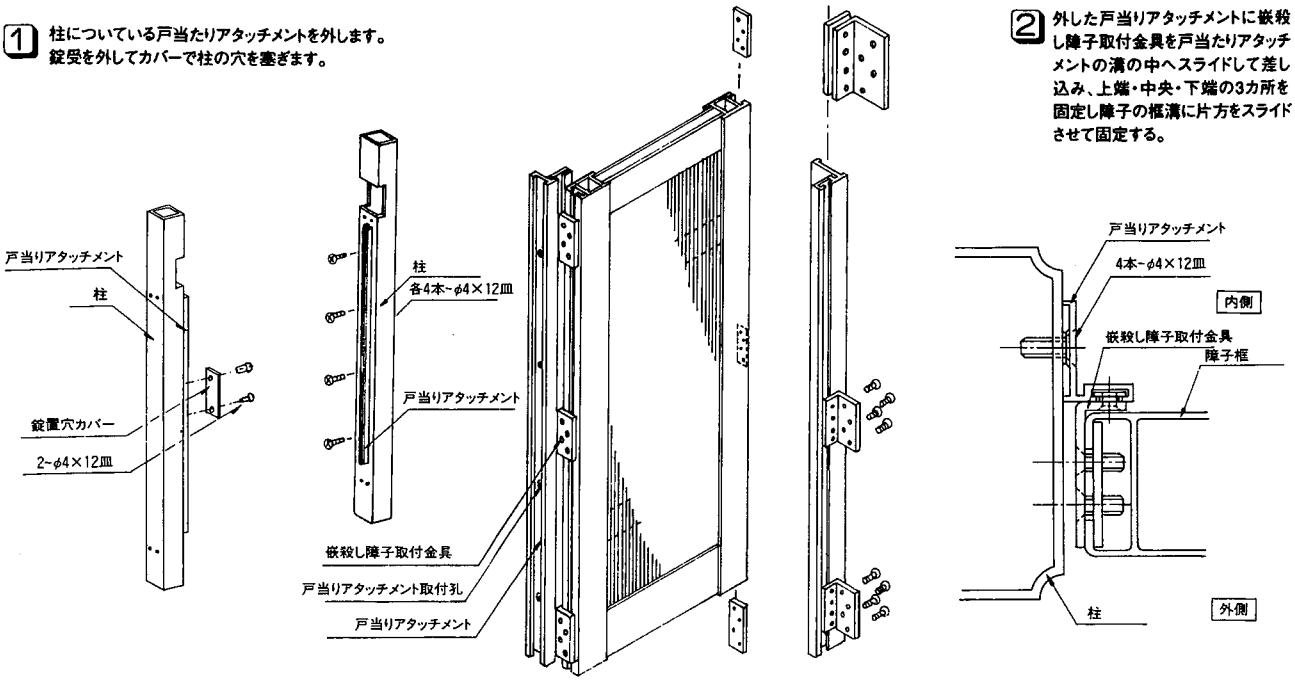


■屋根付片袖嵌殺し

枠部の組立て手順は⑤までは前頁の手順と同じです。

1 柱についている戸当たりアタッチメントを外します。
錠受を外してカバーで柱の穴を塞ぎます。

2 外した戸当りアタッチメントに嵌殺し障子取付金具を戸当たりアタッチメントの溝の中へスライドして差し込み、上端・中央・下端の3カ所を固定し障子の框溝に片方をスライドさせて固定する。

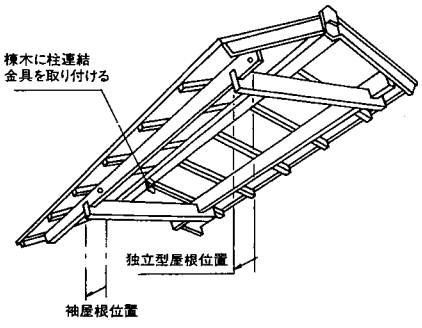


3 取り付けた障子と共に戸当たりアタッチメントを元の位置に取り付けます。

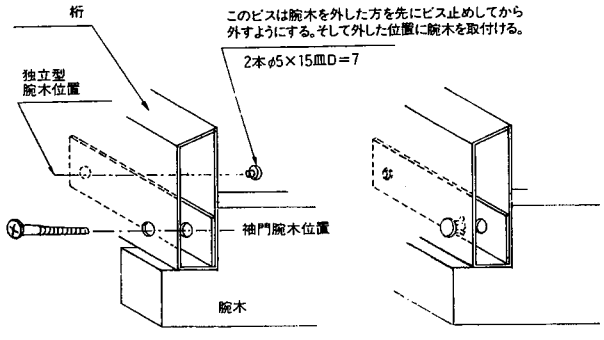
■屋根付袖くぐり戸（3尺間口）　独立型

屋根付袖くぐり戸は宝樹門とセットする場合と組立はほぼ同じですが、特に違う所を説明します。

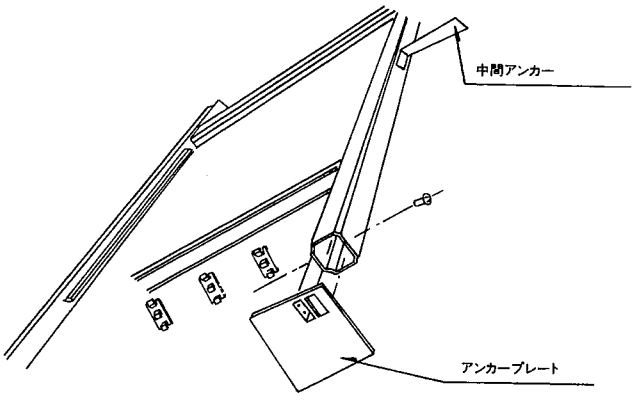
1 屋根は宝樹門袖タイプでセットされていますので、独立タイプ（3尺間口）で使用する場合、腕木を中心に振り分けになるよう組替える（仮束不要）。



腕木を外して位置を変える時、桁の中に裏板が入っていますのでビスの取外し順序を下記のよう注意して下さい。
まちがえますと裏板が倒れて補修が大変むずかしくなります。
①腕木キャップを外す②腕木を外す③外した位置の孔にビスを取付ける（皿5×15）。④中央側のビス穴キャップ、ビスを外し腕木を取付け腕木キャップを取付ける。



2 以下据付まで前頁と同じになりますが、アンカープレート・中間アンカーは柱両方に取り付けて下さい。



■お客様へ　取扱いの手引

アルミ門戸宝樹門をお買い上げいただきまして、ありがとうございました。いつまでもご使用いただくため、下記事項にご留意くださいますようお願いいたします。

★メンテナンスの方法

清掃は宝樹門の汚れの程度及び表面の種類により下記に社すとうり、それに適した清掃方法及び洗剤を選び、実施に当っては次のような注意をしてください。

1 清掃用具としてワイヤブラシ、スチールウール、金べら等は使用しないでください。また清掃時、小石、砂、金属片が用具に付着してもアルミニウム建材をきずつける事があります。特に塗膜の場合は、アルマイトより軟質なので注意が必要です。

2 酸性またはアルカリ性の洗剤（例えば塩酸、硝酸、タイル洗浄剤、か性ソーダ等）は、一次的に汚れがよく取れるように見えますが、腐食や変色を起しますので使用を避けてください。

3 市販のクリーナーの中には、アルミニウムを腐食させるものがありますから注意してください。

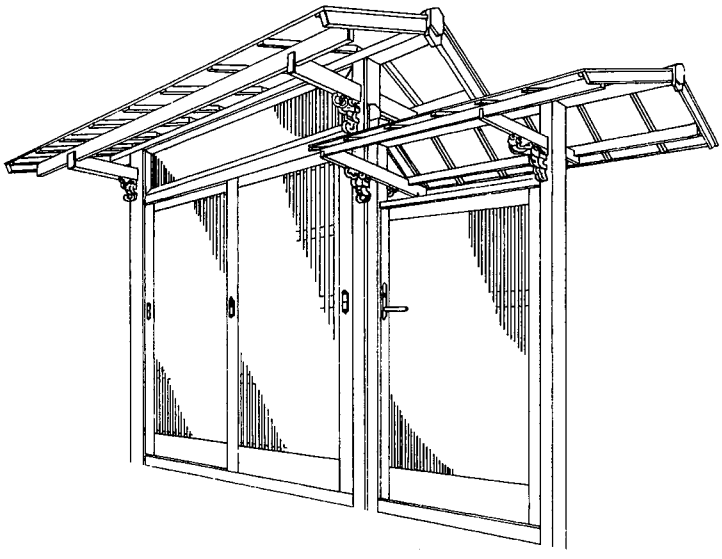
4 清掃は圧延または押し出しによる筋目方向にそって行うときれいにできます。

5 水溶性洗剤の使用後は十分に水洗いを行い、乾いた布で水分を拭き取ってください。

★メンテナンスの時期とひん度

宝樹門の表面の汚れが軽いうちに清掃するようにすれば、清掃も簡単で費用も少なくてすみます。しかし長期間清掃しないで放置しておきますと、表面に付着した汚れが腐食へ進行します。こうなると、清掃しただけではきれいにならず、補修の必要が出てくることもあり、費用も多くかかります。

清掃のひん度は汚れの程度及び立地条件により下表を参考にしてください。清掃の時期は暖房シーズンの終る初夏及び台風シーズンの終る秋頃が清掃の効果及び作業環境から適当と考えられます。



建物の立地条件と清掃のひん度

立地条件	清掃回数
臨海工業地帯	1～2回／年
海岸、工業地帯	1　回／年
市街地	0.5～1回／年
田園地帯	0.5回／年

■施工店名